

オペラガラス

発行日 / 2013年11月14日(木)

編集・発行 **厚木演劇鑑賞会幹事会**

〒243-0014 厚木市旭町 5-43-1 三橋パルクビル 305

TEL/046(228)9325 FAX/046(228)9349

E mail:atsugi enkan@ga2.so net.ne.jp

<http://www.enkan.org>

今回の例会は、地元の伝統芸能「相模人形芝居」を初上演。乞うご期待！

第152回例会
長谷座公演
《国指定重要無形民俗文化財》
『相模人形芝居』



演目：「式三番叟 揉みの段」
「壺坂観音靈験記 山の段」

今こそ会員の力を発揮しましょう！

今年の秋の臨時サークル懇談会では、会議の最後に懇談会資料の下記の文章の読み合わせを行いました。参加者からは、「厚木えんかんのことが良くわかる」と大変好評だったので再掲載します。

厚木えんかんは、1986年わずか463名の会員からスタートしました。以後、28年の間に151回もの例会を重ねてきました。

劇場へ一歩足を踏み入れた瞬間から、非日常空間へと誘われます。そして数々の劇団から、「始めての出会い」「きずき」「感動」「笑い」「涙」などを受け取り、明日からの日常を生きていく力を、少しずつ貰ってきました。

一方、劇団はというと…。厚木えんかんの総会で講演して頂いた、劇団民藝の女優、故南風洋子さんが、「あなたたち演劇鑑賞会があるからこそ、私たちは生活できるんです。」と、目を潤ませながらも、力強く語ってくれたことがあります。運営サークル時の搬入や搬出など、劇団の方々と直接触れ合う機会のために、この言葉は、言葉だけでないことを実感します。

厚木えんかんの良さは、会員しか知りません。この良さを、言葉で伝えられるのは、会員しかできません。今、創立以来の危機に立っているというのは決して大げさではないのです。会員一人ひとりの力は小さいけれど、この力が集まれば、未来は開けます。他人事とせず、まずは、一人ひとりが動き出してみませんか。



厚木えんかんの未来を輝かせるために

「広場に杭を立てよう 花を飾ろう それが祭りになる」 哲学者ルソーの言葉です。

今もなお上演され続けている、劇作家・宮本研作『美しきものの伝説』(1968年文学座初演)の最後のセリフにもこの言葉が引用されています。

厚木という広場に、演劇鑑賞会という「杭」を立てたのは今から28年前でした。その「杭」を囲んで、日常生活を豊かにする演劇を鑑賞する楽しい「祭り」(＝例会)が始まりました。

この「杭」を支え続けてきたのが「運営サークル」です。そして、厚木に立った「杭」に「花」を飾りに来てくれるのが、劇団の皆さんです。「杭」は握りのサークルで支えられることはできません。

「祭り」のたびに、運営サークルが交替して、次のサークルにバトンタッチしながら、28年間支え続けてきました。さすがに28年もたつと、「杭」も弱ってきて、「祭り」の回数も減ってきました。けれどもこの「杭」が倒れたら、「祭り」が無くなってしまいます。

最近「祭り」に若い人たちが少ないね、という声がよく聞かれます。今は「祭り」に來なくても「杭」が立っていれば、いずれ「祭り」に來てくれるはず

です。
今、「杭」を支えるには厳しい環境で、力も弱っています。けれどこの「杭」を支える人が一人でも二人でも増えていけば、支える力を分け合って強くなっていくことができます。

「鮎祭り」に負けない、老若男女がたくさん参加する厚木えんかんの「祭り」を賑やかにする未来予想図を会員みんなで描いていきましょう。杭に花を添えてくれる劇団に感謝しつつ…。

第152回例会 劇団NLT公演

『OH!マイママ...』ばれ話

運営担当の皆さん、お疲れ様でした！

NLTはフランスの翻訳劇を中心に大人が楽しめるコメディを上演し続けて40年以上の劇団。厚木では、「毒薬と老嬢」を始め、数多くの作品を上演しています。

「OH!マイママ」は、性同一性障害というデリケートな問題を取り上げているのですが、NLTの見事なアンサンブルで、大いに笑い、そしてちょっと切ない展開に惹きこまれてとても素晴らしい舞台でした。

稽古場見学で...

九月一八日、劇団の稽古場に運営担当サークルが他の鑑賞会の人たちと一緒に邪魔しました。稽古は一幕を見せていただいた後、お茶とお菓子をいただきながら出演の皆さんと懇談。参加者からは、「間近に役者さんの表情、息使いまで感じてワクワクした。交流によって、役に対する熱い思い、情熱を感じることができて、例会当日が益々楽しみになった。」と。

ジャサント役の守屋利香さんは、なんと厚木の出身で、「両親は今も厚木におられるというのです。そこで、九月二五日、相模原南市民ホールで行われたゲネプロ(通し稽古)では、厚木から参加した運営担当の七人で、守屋さんを楽屋にお尋ねして記念写真をパチリ。差し入れに、厚木のゆるキャラ「あ



ゆコロちゃん」のおまんじゅうを持参しました。ちょうど「ゆるキャラグランプリ」の公募中でしたので、その宣伝もしてきてしまいました。(利香さんは、あとでブログにアップもして応援してくださいましたよ。)

息子のルイ役の弓澤公望さんは、昨年『がばいばあちゃん』でも来られた方。おっとりしたボンボン役に参加者は一足先に、大笑いして帰ってきました。

搬入では...

例会当日、朝八時五五分に会場に集合。NLT団員のスタッフ紹介のあと、「エイエイオー」の掛け声でスタートし、フランス風のおしゃれな家具や絵画などをトラックから運びます。一緒に頑張ったスタッフメンバーには、当日出演する「キンちゃん(弓澤さん)」「リカちゃん(守屋さん)」の姿も。みんなでつくり上げる舞台、そんな実感をもてる楽しい作業となりました。



搬入の終りに、若手の俳優さんを「今日ちょっと出ますから、よく見ててください」と紹介されました。上演中に目を凝らして舞台をみつめていましたら、それは、幕開きにダンスを踊るシルエットの二人でした。舞台装置をみて、あれが私が運んだ椅子だわ、とそんな思いで観ることができるのも、運営担当ならではのですね。

開演前の会場での顔合わせでは、制作の小川さんや今回はじめて神奈川登場の山崎さんから挨拶があり、この作品を大切にして全国をまわっているしやる意気込みが伺えました。

劇団と共に...

楽屋見舞いとして差し入れたのは、『希望の丘』のOH!マイママと刷り込んだマカロン。食べるのがもったいないくらい可愛いお菓子で、とても喜んでいただきました。

舞台が終わったのカーテンコールでは、NLT代表の川端楓二さんから、演劇鑑賞会への感謝と新しい会員を誘いましょうという激励のメッセージをいただき、鑑賞会は劇団とともに例会を作り上げていくんだという思いを改めて共有することができました。

五人の出演者の皆様に差し上げたプレゼントの花束を、会場に返してくださいるなど、とてもなかなか例会風景でした。

今回の運営サークルは...

二二サークル一八名の運営サークル委員でした。六月七日の事前準備からスタートし、六月二四日から一〇月六日まで、五回の顔合わせを行いました。四月月にわたる長丁場でしたが、複数参加のサークルも増え、和やかな雰囲気でした。話し合いを進め、楽しく準備作業を行なうことができました。

サークルになんとか一名以上の入会をと取り組んできましたが、それでも新規入会は九名にとどまり、前例会クリアはならず。この素敵な舞台をもっと多くの人に観てもらいたかったと残念でなりません。

年一回の運営サークルは、劇団と触れ合い、サークルと交流し、舞台を共に支えようという思いを共有していく貴重な場です。これからも厚木で、魅力あふれる作品に出会っていききたい、との熱き思いを大切にして、みんなで鑑賞会としての取り組みを広げていきましょう。(なぎさサークル)